

はじめに



東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

平成30年度は、3月10日、東京都庁において「第29回東京都平和の日記念式典」を開催いたしました。

記念式典の冒頭に東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界の恒久平和を願って黙とうを行い、厳粛な雰囲気の中で式典が執り行われました。

式典に引き続き、東京都交響楽団による記念公演を行い、「追悼と平和への祈り」の気持ちを新たにしました。

また、記念行事の一環として、東京芸術劇場、武蔵野市役所、多摩市立永山公民館において、「東京空襲資料展」を開催いたしました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものであり、平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。

結びになりますが、今回の東京都平和の日記念行事の実施にあたり、御協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。


平成31年3月

東京都




目次

はじめに	1
第一章／記念式典	3
概要	4
主催者挨拶	6
東京都知事 小池 百合子	6
東京都議会議長 尾崎 大介	7
来賓挨拶	8
在日外交団代表	8
駐日エリトリア国特命全権大使 エスティファノス・アフオワキ・ハイレ閣下	
東京空襲被災者代表 中里 崇亮様	12
式典風景	13
記念公演	15
第二章／普及啓発	19
告知	20
第三章／関連事業	23
東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑	24
「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」花壇デザイン画募集	25
東京空襲資料展	30
東京空襲資料展 チラシ	32
東京空襲資料展 展示品一覧	34
東京空襲写真パネル展示	40
第四章／資料	41
アンケート用紙	42
アンケート集計結果	43
東京都平和の日条例	49
東京都民平和アピール	50



第一章
記念式典





概要

第29回東京都平和の日記念式典

日時 平成31年3月10日(日)
午後2時～午後3時30分

場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場

プログラム	午後1時00分	開場・受付
	午後2時00分	記念式典
	午後2時30分	休憩
	午後2時45分	記念公演

※インターネット中継（東京動画）を実施

式次第

* 黙とう

* 国歌斉唱

* 主催者挨拶

東京都知事
東京都議会議長

小池 百合子
尾崎 大介

* 来賓挨拶

在日外交団代表
東京空襲被災者代表

駐日エリトリア国特命全権大使
エステファノス・アフワキ・ハイレ閣下
中里 崇亮様

概要



会場全景



黙とう

主催者挨拶



東京都知事

小池 百合子

本日ここに、御遺族の皆様、都民の皆様、在日外交団を始めとする御来賓の皆様をお迎えして、「第29回東京都平和の日記念式典」を執り行うに当たり、御挨拶を申し上げます。

東京は、先の大戦で、度重なる空襲を受け、多くの都民が犠牲となりました。なかでも、昭和20年3月10日、下町地区を中心に襲った大空襲は、一夜にして10万人ともいわれる尊い命を奪い、人々は家族と引き裂かれ、焼け出されました。

大空襲にさらされたその悲惨な光景と、家族を失った深い悲しみは、今なお、被災した方々の心の中に、大変重く刻み込まれています。

犠牲となられた方々の御無念と、御遺族の皆様の深い悲しみに思いを致しますと、改めて戦争の残酷さ、悲惨さを考えずにはおれません。

戦争を知らない世代が社会の大半を占めるようになり、戦争の記憶の風化が懸念されていますが、私たちが今享受する平和と繁栄は、多くの都民の尊い犠牲の上に築かれているものです。私たちはそのことを肝に銘じ、戦争の悲惨な記憶、史実を、しっかりと次の世代に語り継ぎ、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

東京都では、平和の意義を確認し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、3月10日を「東京都平和の日」と定め、記念行事を実施しております。

都立横網町公園内には、「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」を建設し、祈念碑の内部には東京空襲で犠牲になった方々のお名前を記録した「東京空襲犠牲者名簿」を納めております。本年は、新たに89名の方々のお名前を追加し、合計81,147名の方々が登載されております。

その祈念碑を覆う花壇は、都内の小中高生がデザインしたものです。四季折々の花々が、生命の息吹と尊さを伝えています。

一方で、広く世界に目を向けますと、今もなお、地域紛争やテロにより命を奪われ、愛する人を失い、故郷を追われる多くの人々がいらっしゃいます。飢餓や貧困もまた人々を苦しめています。

今こそ私たちは、世界の都市と手を携え、相互理解を深め、戦争の惨禍を経験したこの東京から、世界平和に貢献していくべきであります。

来年2020年は、平和の祭典ともいわれるオリンピック・パラリンピック競技大会が、東京で開催されます。都民の皆様とともにこの大会を成功させ、希望にあふれた平和国家日本の首都として、この東京をさらに発展させていくことを改めてお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

主催者挨拶



東京都議会議長
尾崎 大介

本日ここに、御遺族をはじめ、平和を願う都民の皆様とともに、第29回「東京都 平和の日」記念式典を執り行うに当たり、東京都議会を代表いたしまして、御挨拶を申し上げます。

先の大戦が終わり、早や74年の歳月が過ぎ去ろうとしております。

国の内外において、戦禍の中、多くの方々のかけがえのない命が失われましたことは、日本国民が永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

東京は、昭和17年4月18日以来、度重なる空襲を受け、昭和20年3月10日の東京大空襲では、下町を中心とした地域が一夜にして焦土と化し、多くの方々が犠牲となりました。

御遺族の皆様の御心中を拝察しますと、万感胸に迫り、哀惜の念を禁じ得ません。

今日、私たちが享受する平和と繁栄は、歴史に刻まれた幾多の惨禍と、尊い犠牲の上に築かれたものでございます。

然るに、世界各地では、テロ行為や地域紛争などが後を絶たず、多くの無辜の命が犠牲となっております。

日本では、まもなく「平成」という時代が区切りを迎え、新たな時代が始まろうとしておりますが、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、若い世代に語り継ぐとともに、強い意思を持って、平和な社会の実現に取り組まなければなりません。

東京都議会といたしましては、戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう、平和を求める都民の願いを込め、すべての国々による核兵器等の廃絶を世界に訴えるなど、世界の恒久平和の実現に取り組んでまいりました。

これからも、すべての都民が安心し、真に豊かな生活を送ることの出来る平和な社会を構築することが、犠牲となられた方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、より一層の努力を傾注してまいり所存でございます。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、御列席の皆様の御健勝・御多幸を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



在日外交団代表

駐日エリトリア国特命全権大使

エステイファノス・アフォワキ・ハイレ閣下

駐日外交団代表の皆さま

小池都知事

東京都議会議員

市区町村長

東京都民

並びにご列席の皆さま：

こんにちは

私の国の言語で、いつでも使える挨拶の言葉はSelam(セラーム)と言い、これは平和を意味しています。

東京が絨毯爆撃を受けた1945年3月10日の夜、10万人以上の人々が亡くなり、100万人以上が負傷しました。家や建物、自然も焼き払われました。

人類の歴史においてこの特定の期間は、人類の過去と現在の中で最も醜い一面をもち、原子力兵器を含むあらゆる戦争兵器が使われました。強大な勢力が戦争の道具として持っていたあらゆる兵器が、アジアで、ヨーロッパで、そして私たちの国エリトリアを含むアフリカ大陸で人々の頭上に降り注ぎ、地球上の男性、女性、そして子供たちに無差別に襲いかかりました。血まみれの日々と年月のあいだに、都市、町、そして歴史的な文明の中心地が残虐行為に襲われました。

それゆえ、本日私たちがこうしてここに集まっているのは、この地球上の平和の意味や価値、そのために人類によって払われた犠牲を今一度認識し、私たちの記憶と次世代の記憶を永遠に残すことで、これらすべての醜い面をもつ戦争から教訓を学ぶためだと思っています。

私は1947年に生まれました。これは東京大空襲から2年後です。私はアスマラと呼ばれる、エリトリアの首都で育ちました。ところでアスマラは現地語では、奴隷制に抵抗するために女たちが男たちを団結させた、という意味をもっています。その時代、イタリア植民地であったために、エリトリアも第二次世界大戦に深く関わっています。16万人以上の兵士がエリトリアからこの血まみれの戦争に参加しました。ご存知かもしれませんが、この時代に「エリトリア」と名付けられたイタリアの軍艦がインド洋で任務に当たっていましたが、戦時中には、(日本の)庇護を求め神戸港にも来ました。「エチオピア」と名付けられた改造版の姉妹船も建造中でしたが、戦争が予想より早く終わったので完成には至りませんでした。

来賓挨拶



そのような時期に育ったので、人種的に隔離されたアスマラの街にある山の斜面に掘られたエアシェルター、すなわち日本語で言うところの防空壕で私が幼少期にかくれんぼをしながら育ったと言っても皆さん驚かないでしょう。英語では「大隊の泉」と訳されますが、「Mai Botoloni」が私たちの水源でした。スパゲッティとマカロニが私たちの親へ配給され、私たちはそれを食べて育ちました。栄養失調になることもよくありました。しかし、悲劇はそこで終わりませんでした。それ以来、戦争の匂いが私たちの近隣や地域からなくなることはありませんでした。

私たち全員が同意するように、人生はとても短いものです。当時子どもであった私たちの世代は半世紀にもわたって、人々と地域を荒廃させている代理戦争に巻き込まれ、それを目撃することを強いられました。これは何百万もの罪のない人々の命を奪い、私たちの地域を、周期的に起こる大規模な難民発生、未開発、そして干ばつと飢饉にさらした戦争でした。化学兵器やスカッドミサイルを含むあらゆる種類の戦争兵器が使用された本当に残酷な戦争で、エリトリアとエチオピアの何百万もの人々の生活が破壊されました。

この長い戦争とアフリカの私たちの地域での72年間にもわたる危機と戦争状態から脱して、2018年9月16日には、アントニオ・グテーレス国連事務総長とサウジアラビアのサルマン・ビン・アブドゥルアズィーズ・アール・サウード国王の立会いのもと、エリトリアとエチオピアの間に平和協定が結ばれました。この平和協定は世界平和にむけた重要な歴史的出来事であり、この悲しき日に東京大空襲の被害者を追悼するためにここにいる、すべての人々と共有されるべき事柄だと考えました。

私は1982年のレバノンでのアラブ・イスラエル戦争に加えて、超大国や、はるばるラテンアメリカからやってきた地域大国を巻き込んだ’アフリカの角’における最大の戦いを目撃してきました。戦争とその悲惨な結果を目撃した者として、人類は恒久平和を得るに値すると信じています。みなさんの地域での平和と同様に、私たちの地域においても平和を維持できるよう手を貸してください。私たち人間は皆どこにしようとも、平和を享受するに値します。戦争を知り経験した人間には、平和を見るための勇気、展望、そして知恵があると私は信じています。東京都平和の日記念式典は、アスマラやアディスアベバ、そしてその他の世界各地の平和の日記念式典です。これが地球上での戦争のすべての犠牲者を追悼する唯一無二の方法だと思います。

この演台から、私はエチオピア政府と私の属するエリトリア政府に、2020年から9月16日をエリトリアエチオピア平和の日として祝日にし、長い戦争の犠牲者を追悼し、次世代のために平和の重要性についての理解を深める日とすることを検討するよう呼びかけたいと思います。

ご清聴いただきありがとうございます、そして私たちの地域での平和構築への努力に対する変わらぬ支援に期待しています。60年の長い暗黒の夜の後に、平和の夜明けがやってきたのです。

セラーム (挨拶、平和)



Messages from the Distinguished Guests

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the State of Eritrea

H.E. Mr. ESTIFANOS Afeworki Haile

Representatives of the diplomatic corps in Japan present,

Governor Koike

Members of the Tokyo Metropolitan Assembly

Mayors of cities and municipalities

Citizens of Tokyo

Ladies and Gentlemen:

Konichiwa,

Greeting people at all time of the day in my language is Selam and it means Peace:

More than 100,000 souls were killed and more than 1 million people were injured on the night of 10 March 1945 when the city of Tokyo was blanket bombed from the air. Homes, buildings and natural habitat were burnt out.

At this particular period of time in human history, one of the ugly faces of our human past and the present, all tools of warfare were used including atomic arsenals. Whatever the mighty powers had in their possession as instruments of war, rained on the heads of people ravaging indiscriminately men, women, and children all over our planet – in Asia, Europe and the continent of Africa including but not excluding my country Eritrea. Cities, towns and historic civilization centers all over were knocked out with brutality during those bloody days and years.

Hence, I believe, we are gathered here today, to learn a lesson from the ugly faces of all those wars by immortalizing our memories and the memories of generations to come by highlighting the meaning, price and sacrifice paid for peace all over this planet by the human race.

I was born in 1947. This is two years after the Bombing of Tokyo. I grew up in the capital city of my country Eritrea called Asmara. By the way Asmara means in the local language women united men to fight against slavery. Eritrea being an Italian colony during that period was also deeply involved in the Second World War. More than 160,000 soldiers participated in this bloody war from Eritrea. As you might know, Italian warship named “Eritrea” served in the Indian Ocean during this period, which came during the war to the Port of Kobe for protection. A modified sister ship named “Ethiopia” was also in the making but was not realized because the war ended earlier than expected.

Hence, you must not be surprised to hear of my story that I, as a toddler, grew up playing hide-and-peek in air-shelters, what you call in Japan “Bokugo” dug on the 2 side of a mountain in a racially segregated city of Asmara. “Mai Botoloni” translated in English “Fountain of the Battalion” was our water source. Spaghetti and Macaroni were the rations of our parents from which we fed. Malnutrition was common. The misery did not end there. The smell of war never left our neighborhood and the region since then.

Messages from the Distinguished Guests



Life is very short, as we all agree, we the children of that generation were also sucked into and forced to witness half of a century of proxy wars ravaging our people and the region. This was a war that took the lives of millions of innocent people and subjected our region into cyclic massive displacement, underdevelopment, drought and famine. It was really a savage war where all kinds of war instruments were used including but not excluding chemical weapons and Scud Missiles, which knocked out livelihoods of millions of the population in Eritrea and Ethiopia.

Coming out from the ruins of this long war and 72 years of crisis and war situation in our region of Africa - Peace Pact was signed between Eritrea and Ethiopia witnessed by Secretary General of the UN Antonio Guterres and King of Saudi Arabia Salman bin Abdulaziz Al Saud on September 16, 2018. This treaty of peace is a significant historic events for world peace that I thought must be shared on this sad day with all present here set to commemorate the victims of the Tokyo bombing.

I have witnessed the biggest battles in the Horn of Africa which involved super powers and regional powers which came as far as from Latin America as well as the 1982 Arab Israel War in Lebanon. As a person who had witnessed wars and its disastrous outcomes, I believe humanity deserves eternal peace. Help us keep the peace in our region as well as in your region. We all deserve peace, wherever we are... I believe that those who know and experienced war have the courage, vision and wisdom to see peace. Peace Day Memorial Ceremony in Tokyo is Peace Day Memorial Ceremony in Asmara and Addis Abeba and the rest of the world. This should be the only and only way to commemorate all victims of war in our planet.

From this podium, I would like to call upon the Government of Ethiopia and my own government, the Government of Eritrea to consider in making, starting 2020, September 16 a public holiday to observe Eritrea Ethiopia Peace Day -a day to commemorate the victims of the long war and heighten the understanding of the importance of peace for generations to come.

Thank you for lending me your ears, and look forward to your continued support for the peace building efforts in our region. Dawn of peace after long dark nights of six decades...

Selam

来賓挨拶



東京空襲被災者代表
中里 宗亮様

御紹介に預かりました中里宗亮と申します。

私が生まれ育ち、現在、住職を務める武蔵野市延命寺は、戦時中、日本の軍用機械のエンジンを製作していた中島飛行機武蔵製作所から200メートル程度の場所にございました。この工場は、国内の主要な軍事工場であったため、B29爆撃機の東京空襲の最初の標的となりました。空襲は、昭和19年11月24日から始まり、20年8月8日の最後の空襲の日まで、延べ9回にわたり、工場のみならず付近住民の多くの方々が犠牲となりました。

私の空襲体験は小学校2年生から3年生にかけての1年足らずの間でしたが、非常に長く感じられ、恐怖と悲惨な体験は、今でも絶対に忘れることはできません。

初めての空襲の時、私は武蔵境駅近くの第二国民小学校2年生でした。正午過ぎに空襲警報が鳴り、集団下校中に、突然、ガラガララッ、ダーンダアーンと轟音が鳴り響き、1キロ程先に爆弾が落ちて土煙がわっと舞い上がりました。B29約80機が爆弾を投下したと聞きました。

2回目の空襲では、お寺に爆死した方々の遺体が一斉にリヤカーで運び込まれました。大きな墓穴が各所に掘られ葬式が行われました。家族みんなで防空壕に入ると一家全滅になってしまうので、父に「隣の防空壕に行け」と言われ、一人で泣きながら、不安の中、空襲に耐えることが多くなりました。

5回目の空襲の時、防空壕へ逃げ込みましたが、防空壕の蓋がばたばたと持ちあがり、蓋を押さえていた父が、ここには危ないと怒鳴り、玉川上水を目指して一目散に逃げました。工場全体から黒煙が立ち上り、火の粉が一面に降り注いでいました。

7回目の空襲の時、玉川上水まで逃げて行ったら、お寺に爆弾が落ち住職が死んだと言われました。泣き泣き駆け足で戻ると本堂と庫裏の雨戸や障子がめちゃくちゃに壊れ飛び散っていました。すぐ裏の家に爆弾が直撃し、家が吹っ飛んでいました。大きなすり鉢状の穴のふちで、首が半分ちぎれ、開いた目と口と鼻に泥が詰まった泥まみれの人が万歳の恰好をして亡くなっていました。よく見たら、裏の家のおじさんでした。祖母の墓にも爆弾が落ち、髪の毛と一緒に埋葬されたと思われる水枕が飛び散っていました。50センチ四方の墓石が200メートル位離れた建物のトタン屋根と畳と床板を突き抜けて落ちていました。

9回目の空襲では、近所の家族が爆死しました。引き取り手のない遺体は、すり鉢状の穴の赤土の上に直接寝かされていました。親子に掛けられたトタンの脇から泥まみれの髪の毛と足がはみ出した光景がいまだに目に浮かびます。思えば終戦まで、あと一週間でした。

戦後、残った工場の一部が改修されアメリカ軍の宿舎となりました。昭和52年に、宿舎が取り壊され、武蔵野中央公園ができることになり、戦争中の面影がなくなりました。私はこれを機会に、人々が戦争のことを忘れず、二度と繰り返すことがないように、戦没者の名前や戦争の様子を刻んだ慰霊碑を建てました。また、戦争の傷跡としてお寺に残った爆弾の破片や機関銃の弾などの戦争遺物を展示公開し、見学に訪れる多くの子供達に戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えるために役立てています。

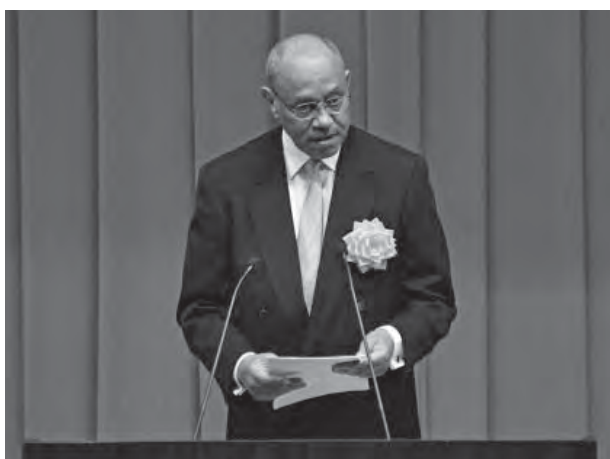
最後に、戦争で犠牲になられた多くの方々の御冥福と世界の恒久平和を心より祈念いたしまして、結びの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



東京都知事挨拶



東京都議会議長挨拶



在日外交団代表挨拶



東京空襲被災者代表挨拶



登壇者(主催者)



登壇者(来賓)

式典等風景



バス受付風景 (横網町公園)



バス乗車風景 (横網町公園)



式典受付風景



式典受付風景



会場風景 (ロビー)



会場風景

記念公演



第29回東京都平和の日記念公演 「追悼と平和への祈り」 ～東京都交響楽団メンバーによるアンサンブル～

日時 平成31年3月10日(日)午後2時45分～午後3時30分
場所 東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場
演奏 東京都交響楽団

プログラム

～戦争犠牲者のための追悼として～

◆ J. S. バッハ : 管弦楽組曲第3番 BWV.1068より「アリア」

.....

◆ モーツァルト : モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」第1楽章、第3楽章

.....

～子どもたちとのジョイント～

◆ モーツァルト : アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525 第1楽章

.....

◆ グリーク : 2つの悲しい旋律より 第2曲「過ぎし春」op.34-2

◆ 富貴晴美 : 西郷どん -メインテーマ-

.....

～みんなで歌うコーナー～

◆ 高野辰之 作詞、岡野貞一 作曲 : 『ふるさと』

◆ 江間章子 作詞、團伊玖磨 作曲 : 『花の街』

記念公演

公益財団法人 東京都交響楽団 プロフィール

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称:都響)。
現在、大野和士が音楽監督、アラン・ギルバートが首席客演指揮者、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者を務めている。

定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室(50回以上/年)、
青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での出張演奏、福祉施設
や被災地への訪問演奏など、多彩な活動を展開。

CDリリースは、インバルによる『マーラー:交響曲全集』のほか、交響組曲
『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)や『Fate/Grand Order』などのゲーム音楽
まで多岐にわたる。

これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ている。
2015年にはベルリン、ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパ・ツアー
を行い、各地で熱烈な喝采を浴びた。

“首都東京の音楽大使”として、来たる東京2020オリンピック・パラリン
ピック競技大会に向け、文化芸術の活性化と気運醸成を図っている。

公式ウェブサイト <https://www.tmsso.or.jp/>

2019年2月現在



記念公演



出演者

ソプラノ：倉本 絵里

第1ヴァイオリン：山本 友重
篠原 智子
塩田 脩
小関 郁
横山 和加子
田中 雅子

第2ヴァイオリン：遠藤 香奈子
山本 翔平
小林 久美
新田 僚
高田はるみ

ヴィオラ：小林 明子
林 康夫
樋口 雅世
西 悠紀子

チェロ：田中 雅弘
平田 昌平
森山 涼介

コントラバス：佐野 央子
富永 八峰

ジョイント参加者：渡邊 有璃子 (中学2年生)
水谷 颯 (小学4年生)

